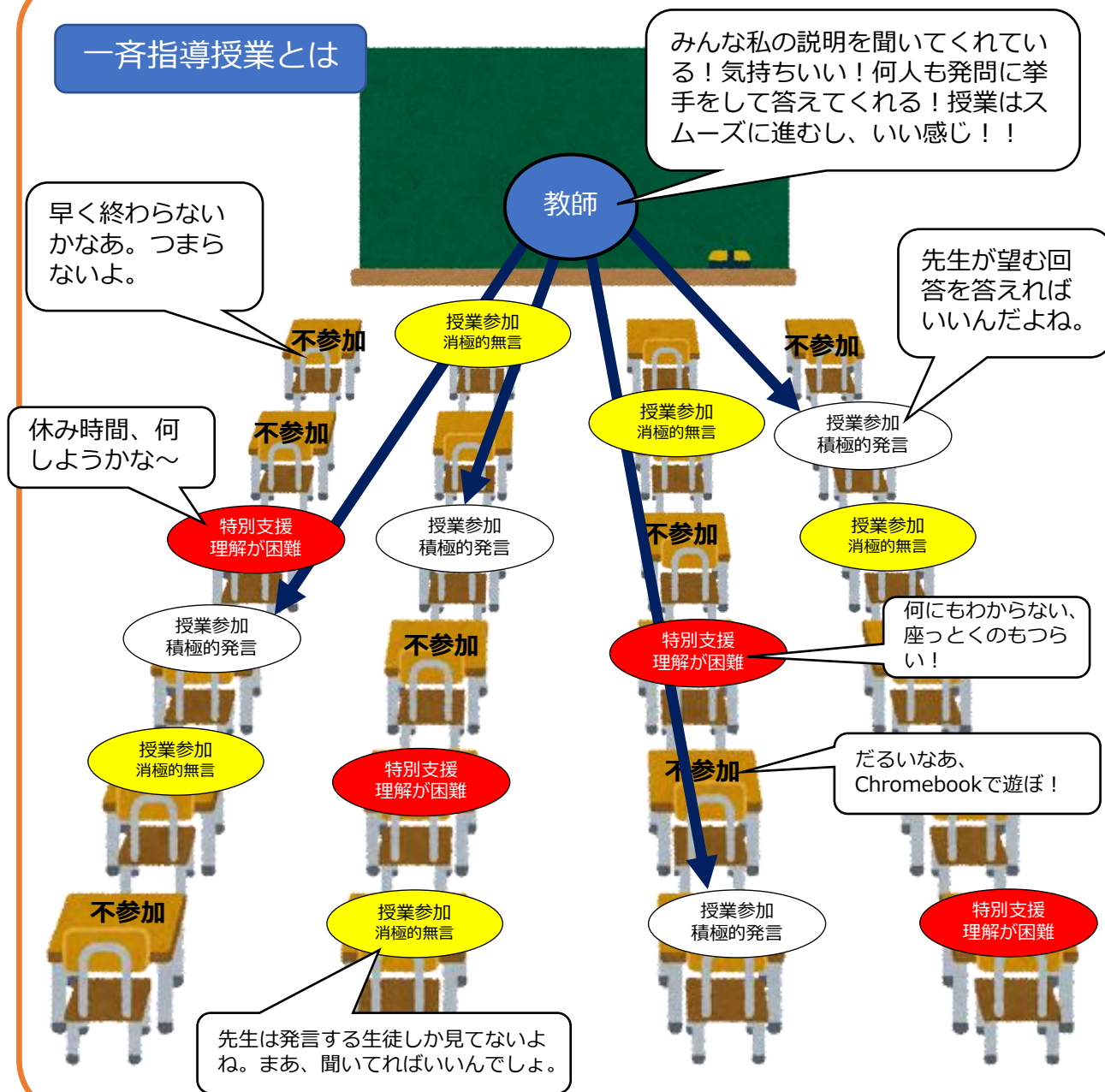


なぜ、授業改善が必要なのか？教育のプロは変わり続けられる人

一斉指導授業とは



全員参加の授業でない一斉指導の取組がこれまでの学校教育で行われてきた。

「黙って座っているだけの大半の生徒」を置き去りにした教師の自己満足もしくは私の授業に参加しない生徒が悪いという考えであったのかもしれないが、一斉指導の弊害による学習内容の補填を、宿題を出すことで実現していこうとしていたという図式がイメージされる。

しかし、宿題自体、提出するために答えを写したり、深く考えずに休み時間に適当に終わらせる生徒も多く、学力の定着に効果があったとは必ずしもいえない。

だから

一斉指導から協同学習への転換

学び合う中で全員参加の授業を実現

探究学習課題提示とアウトプット活動の充実

協同学習の中での個別最適化学習を実現
授業内での特別支援教育（個別支援）

宿題から先行学習課題・思考を深めるレポート、チャレンジノート等の課題へ転換

そして

荘内まなびスタイルの具現化による授業改善
「先行学習を基盤とした協同学習」

学力向上だけでなく、Society5.0社会を生きるための力を育成する授業への転換が学習指導要領でも求められている。自分のスタイルを変えることがプロ教師の責務である。

「主体的・対話的で深い学び」「協働的な学び」